

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	熊谷鞠月 (くまがいみづき)
所属・資格 (※学生の場合 は課程・学年を記載)	修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2021 年 8 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本教育心理学会第 63 回総会
発表者 (※学会発表の場合 のみ記載、共同発表者の氏 名も記載すること)	熊谷鞠月・山本菜々子・桂川泰典
発表題目 (※学会発表の場 合のみ記載)	ほめにまつわる経験と顕在的・潜在的自尊感情との関連
<p>発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)</p> <p>日本教育心理学会第 63 回総会において、「ほめにまつわる経験と顕在的・潜在的自尊感情との関連」という題目でポスター発表を行いました。本会はオンラインでの開催であったため、ポスターと説明動画を作成し、参加者の方々にご視聴、ご質問をしていただく形式で発表を行いました。</p> <p>研究では、非意識的な潜在的自尊感情を、コンピュータ課題である IRAP を用いて測定することの妥当性について検討しました。そして、潜在的自尊感情、顕在的自尊感情、他者評定による自尊感情、ほめられた経験や他者をほめること、それぞれの関連について検討しました。本邦では知見の少ない IRAP を用いた潜在的自尊感情の測定について、他者評定という方法を用いて比較することによって検討し、さらなる妥当性の検証が必要であることを示しました。また、顕在的自尊感情と他者評定による自尊感情の高さにずれがある場合、他者を軽視する傾向が強まることを示しました。そして、潜在的自尊感情と他者評定による自尊感情の組み合わせと他者をほめる頻度に関連があることが示唆されました。したがって、ほめることがほめの受け手だけでなく、ほめ手自身に与える影響についても検討する必要があると考えられました。発表にあたって、改めて研究結果について考察を深め、課題を確認する機会になりました。</p> <p>他の参加者の方の発表やシンポジウムを視聴することで、研究テーマ、方法、新たな知見などを学び、視野を広げ、自身の研究についてもより考察を深めることができました。また、視聴者に伝わりやすい資料の作り方やプレゼンテーションの仕方についても学ぶことができました。今後、自身の研究成果をよりわかりやすく伝えるために、発表の方法も改善していきたいと思えます。</p>	